

白雲

栗山政子

小満や手を洗ふたび目に力
 マグネットボタンかちりと青嵐
 自転車が過ぎて最後の薔薇崩る
 水底の石へ鋭き若葉光
 乗る舟は白き花藻の靡く先
 花合歡や白雲が過ぎ鳥が過ぎ
 捨印を押せば金魚の翻る
 昼寝覚もう伸びてゐる足の爪
 木洩れ日のたちまち増ゆる泉かな
 ふうの木の風よく見ゆる今朝の秋